地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初のままの理念である。	○	開設当初と、職員や考え方も変わってきているので、見直せる部分は見直し、より良い理念を作っていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目に付きやすいところに理念を掲示すると共に、ミーティング等の機会に理念について理解をしてもらうようにしている。	○	具体的な理念を作り、理解してもらい、実践してもらえるよう、にしていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の人を交えたイベント（納涼祭）を実施し、交流を深めるようにしている。	○	地域の人との交流はまだ不十分の点が多いが、今後情報誌の発行をつうじての紹介なども検討していきたい。また、交流できる行事も増やしていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な公園などの散歩では、近隣の人との挨拶を心がけ、近隣の人から花や野菜などを届けてもらったりしている。同地区の入居者も増えたため、近隣の知人が来て下さるようになっている。	○	まだ、施設という、垣根があるので、こちらからも寄ってもらえるような、雰囲気作りや、声かけもしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の幼稚園児が時々遊びに来てくれたり、また運動会などに見学させてもらっている。	○	地域の行事も多くなく、また現在の利用者の身体状況からみて、気軽に出られる人も少ない為、地域とのつきあいはまだまだ少ないが、地域の人とも相談しながら、どのような方法がよいか検討していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	居宅介護支援事業所を立ち上げ、介護相談にも積極的に応じる体制は作っているが、まだ具体的な行動までにはいっていない。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上が図れるようにしている。	○	外部評価を全職員で検討し、今後の質の向上につなげられるよう取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況や行事内容などの報告並びに委員の方からの意見をもらうようにしている。	○	委員の方々からも事業所の行事への参加や、ボランティア事業の協力など、徐々に協力して頂ける機会が増えてきており、今後事業所運営により生かせるように取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ具体的な取り組みはなされていない。	○	市担当者の方とも連携を深め、事業所としてどのようなことができるか相談していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ対象となるような利用者がいないこともあるが、取り組みはなされていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待の防止について勉強し、理解を深めるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や職員体制、また医療連携体制や関係医療機関との連携など、できるだけ分かりやすく説明するよう心がけると共に、必要に応じて事前に契約書類等をお渡しして検討してもらっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時などはできるだけ意見を聞くように心がけると共に、訴えや希望が出たときは、それに極力答えられるようにしている。また、傾聴ボランティアにも来て頂いている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会等はまだ設けられていないが、御家族の来所時には入居者の方の状況、特に心配となるようなことはできるだけ細かく説明するようにしている。	○	まだグループホームの会報等が発行されているが、不定期であるので、定期的に発行していきたい。またなかなかお会いできる機会の少ない御家族の方には別途文書等で報告できるよう検討したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には訪問時などできるだけ何でも言ってもらえるような雰囲気を作るように心がけると共に、こちらからも声かけをするようにしている。また出された苦情はその内容・経緯を記録すると共にミーティング等で職員に周知できるよう行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをとり、要望や意見を聞くように心がけると共に最低年1回は個別面談を行って個々の要望を聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員が夜勤を含め各勤務時間帯をできるだけ均等に勤務できるよう配慮し、職員が利用者の状態の変化に対応できるような体制を組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動は利用者の対応に難がある職員や、本人の強い希望のある職員に限るようにし、引き継ぎについてもできるだけ新しい職員が利用者や業務に慣れる時間を取るようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループとして随時勉強会を開催しており、それには交代で参加させるようにはしているが、まだ十分ではない。	○	外部の研修にも、なるべく参加できるような取り組みをしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着サービス連絡協議会でのレベルアップ交換研修会に交代で職員が参加し、他施設での現場研修を経験しながら質の向上を目指している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望の休みを、出来る限り取れるようにしている。	○	職員の意向を聞きながら親睦の機会を多くとれるようにしていきたい。また、勤務中のストレスであれば、少し間を取れるような、体制を作っていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者がなかなか現場に来る機会が少ないので、管理者が現状報告を随時報告し、支持を得ると共に必要に応じ運営者と職員との意見交流の場を設けるなどしている。	○	個々の努力や実績が反映されるような評価を行い、業務に意欲を持って働けるような環境を作っていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	関係事業所のケアマネからの紹介の場合は、ケアマネから出来るだけ細かな情報を得るようにしている。また外部ケアマネからの依頼の場合は、事前に本人と面談している。なお在宅で入居を希望される方には入所されるまでの間併設のデイサービスの利用も検討してもらっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネがいる場合は、今までの経緯を出来るだけ詳しく聞くと共に、ご家族との面談時に御家族の状況やご本人の今までの経緯などお聞きし、利用に際しどのようなことを希望されるか把握するようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在居宅介護支援事業所を立ち上げ、単に入所相談だけでなく、介護全般について相談を受けられるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	従来は在宅や施設からすぐ入所というケースがほとんどであったため、出来るだけ不安を感じさせないよう対応すると共に、御家族の方にも慣れるまでは出来るだけ機会を見て訪問をお願いしている。現在は可能であれば併設のデイサービスを利用しながら、ホームになれてもらうことも行っている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	趣味や出来ることが、個々に違うため、出来ることをしてもらったり、出来ない方などは、会話にて対応している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	まだ相対的には本人を御家族と共に支えていく関係までは築き上げられていないが、一緒に外出して利用者を支えて下さる御家族もいらっしゃいます。	○	出来るだけ入居者の様子を、文書や口頭などを通じてきめ細かく伝えられるようにしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事や、食事会の企画をして、参加を呼びかけているが、遠方の方もいるので、なかなか全員参加とは行かない。遠方の方は、時々外泊をして下さっています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はなかなかこちらから出かけられる利用者の方も少ないが、訪問さして下さるお友達の方が増えてきています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が話を聞いたり、気のあった同士で話が出来たり、また席の配置なども考慮しながら、利用者同士の関係がうまくいくように配慮している。レクリエーションや外出行事などでも、配慮している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた家族の方にも、来て頂けるような、声かけをしている。手紙を頂いたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中のかかわりの中で声をかけ、把握するように努めている。また意思疎通が困難な方には御家族などから情報を得るようにしている。こちらで対応の難しいときは、御家族と相談して対応をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族などから今までの生活歴を把握するように努めると共に、入居後も職員が本人の語りなどを通じて把握するよう努めている。馴染みの家具搬入や、日課（散歩）など、をとりいれている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に、注意深く観察しながらその人全体を把握するよう努めているが、職員ペースになってしまっているところもある。	○	入居者の生活リズムを把握し、職員のペースにならないようにしていく。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者の方がその人の状態に合わせ安心して暮らして行けるよう、御家族の方の意向などを聞きながら計画を立てるようにしている。職員へは、記録用紙への転記などで、周知するようにしている。	○	御家族の意向も訪問されたときなどに聞くようにしているが、まだ十分とはいえず、反映できるようにしていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファの中でその時々の状態に合わせた対応の仕方を検討しており、あわせてその結果をふまえながら、介護計画の変更を行うようにしている。	○	担当職員も、積極的に参加できるようにする。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の身体状況についてはグラフにしたり、日常のことで注意を要することは、具体的に記入し、常に職員が確認するよう心がけている。	○	記録は出来るようになってはきているが、具体性に欠けているので、具体性をもたせていく。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一建物内で認知症デイサービスを併設しており、行事などのとき一緒に参加したり、また希望する人にはデイサービスでのレクリエーションの参加なども促している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎週定期的に来てもらっているボランティアの方が、利用者の方々との対応や、ホーム内外の清掃などを行ってもらっている。最近ではあるが、傾聴ボランティアの方にも来て頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	まだ他のサービスを利用するまでにはいっていないが、近くの美容師さんに定期的に訪問してもらい、希望する利用者さんには利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在検討中であるが、まだ具体的な協働体制までにはいっていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の了承を得て基本的に協力病院をかかりつけ医とし、ホームにおいて通院介助を行い、特に健康面で心配ある時はその都度御家族に報告している。また協力病院にない専門外来が必要なときは、その都度御家族と協議の上、対応している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の進行などで状態変化が見られるときは、認知症専門医に受診し指示・助言を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護職員により日常観察や、受診の際の医師との連絡調整を行うと共に、訪問看護ステーションとの契約にもとづき看護師の派遣を受け相談・助言等を行ってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の身体状態に不安があるときは、医師とも相談の上、御家族様に連絡し必要あれば早めの入院により、状態の悪化を防ぐと共に、入院中は出来るだけ多く職員が見舞いようにして、利用者の不安を少なくするようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の方が重度化したときは、御家族の意向・担当医師の判断等もふまえ、ホームとしてどのようなことまで出来るかを話し合った上でその後の方向性を定めるようにしている。	○	重度化や終末期であっても、出来る限りホームで過ごして頂けるようにしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や御家族よりの希望ある時はその意向をふまえ、かつ医師の判断を仰ぎながら、安心して納得した最後を迎えられるような体制作りに取り組んでいる。	○	必要な知識を勉強会等で、職員に周知してもらう。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ移動する際には、当ホームでの支援状況を渡すと共に、機会を作って訪問し早く施設になじめるように心がけている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いについての資料を職員に渡したり、全体ミーティングの時などに職員の意識向上を図ると共に、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう指導している。	○	まだ言葉遣いなどで不十分な点もあるので、さらに継続して意識向上を図るように徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なかなか自分の意志を出せる人は少ないが、出来るだけ利用者に応じた声かけをしながら、表情を読み取るなどして本人の意志決定の機会を出来るだけ持つようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだどうしても職員の都合による対応の仕方になっている部分がある。	○	出来るだけ本人の意向や身体状態に配慮しながら対応しているが、まだ十分とはいえず今後の検討課題である。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的には身だしなみについては本人の意志により行ってもらっているが、出来ないところや人については、職員が援助している。理美容については月1回美容師に来てもらって行っているが、希望ある人については、なじみの美容室でおこなえるよう援助している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りについては、なかなか共におこなえるような利用者がいない為職員主導でおこなっているが、時々希望メニューを取り入れると共に、誕生日月には、箱膳などで雰囲気をかえている。また、時々出前を取るなどして食事を楽しめるようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒の好きな利用者については、希望をききながら夕食時に提供している。	○	おやつについてはカロリー的な面もあり今のところ個々の対応までには至っていないが、今後職員と共に検討していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は本人の状態を見ながらトイレへの誘導を試みると共に、夜間オムツ使用の人も日中はリハパンに交換している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状ほとんどの利用者が介助が必要な為、時間帯を決め入浴してもらっている。	○	ゆっくり入って頂けるように、配慮していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中は起きて活動してもらい、生活のリズムが整えられるよう努めている。その日の状態に応じて、日中でも休んでいただいている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	なかなか自分でやりたいことなど意思表示出来る人が少ないが、いろいろな手作業的なものを試みて、その人に合ったものを見つけるようにしている。	○	掃除や片付けなどできる人には、依頼して行ってもらっているが、さらに本人にあった楽しみなどを見つけ、張り合いのある生活が出来るよう検討していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度金銭管理のできる人及び多少でもお金を持っていないと不安な人などは、家族の協力のもと少額の小遣いをもっている。またその他の人でも家族より希望ある時は小遣いを預かり、必要なとき使えるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ公園などに散歩に行くようにしている。また時々ドライブや外出行事を行うよう心がけている。	○	まだまだ、少ないので、屋外での食事なども取り入れていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	あまり希望は聴かれないが、外出行事などの時聞いている。また、御家族が連れて行って下さることもある。	○	近隣であれば、予定を組んで、実行していく。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族等からの手紙は渡しているが、本人から手紙を出すまでにはなかなかいっていない。電話は希望ある時はこちらでかけ自室などで話してもらうようにしている。	○	年賀状や暑中お見舞いなどを、計画していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問は夜間以外はいつでも受け入れており、気軽に訪問してもらえるよう心がけている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束をしなければならない利用者はいないが、機会ある毎に身体拘束をしない介護を行えるよう意識の共有を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無線モニターで、常に玄関の出入りが分かるようにしているが、現在、2名ほど外に出たがる入居者がいるため、職員が手薄になる時間帯や、見守りが難しい時間のみ、玄関を施錠するようにしている。（入浴、日曜日など）	○	行動を把握し、なるべく施錠時間を作らないようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の動きがすぐ分かるようホールにて事務作業などを行うと共に、夜間も数時間毎に利用者の様子を確認すると共に、起きたときすぐ対応できるよう、ホールにいるようにしている。歩行不安定な入居者には、フットセンサーにて対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物については、出来るだけ直接入居者の目が届かないように保管している。洗剤等の入っている倉庫には、施錠をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットについてはその都度記録し、職員に認識を共有してもらっている。また事故の際も速やかに事故報告を作成し予防策を検討すると共に、速やかに家族への報告・説明を行うと共に必要に応じ市町村への連絡を行っている。	○	ヒヤリハット報告書の提出の徹底していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDの設置、AEDの講習を行っている。	○	夜間の緊急マニュアルは作成しているが、見直しが必要なので、早急につくりなおしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練や消化器の扱い方などの訓練を定期的に行っている。また運営推進会議の方々にも参加して頂き、協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者の状態が変化したときなどは、ご家族に説明している。リスクについても、家族と相談の下、意向をふまえながら対応をしている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックをしており、利用者に変化見られるときは、状況により早めに医師の受診を受けるようにしている。特に注意の必要な入居者にはバイタルチェックの回数を増やしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報については個人毎にファイリングし、職員も必要に応じ確認すると共に、服薬時にはきちんと服用できているか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日に排便を表によりチェックし、便秘が続くときは看護師とも相談し、一人一人に応じて場合によっては整腸剤などを服用してもらうなどしている。	○	牛乳やバナナなど、食事での予防も検討していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを促し、自分でできない人には職員が対応すると共に、就寝前には義歯の洗浄を行っている。自立している方も、時折義歯のチェックをしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は記録すると共に、個人の摂取量も記録し、情報の共有を図っている。また必要に応じグループの管理栄養士にメニューを見てもらい、アドバイスを受けるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザについては、家族の承諾を得て職員と共に毎年予防接種を行っている。また使い捨ての手袋・使い捨てエプロン・ペーパータオルの使用、消毒薬を常時備え付けておくなどして、感染症の予防に努めている。また、入居者にも石鹸での手洗いを励行している。	○	感染症予防マニュアルが事業所としてまだ作成されていないので、早急に作成したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・台所水回りの清潔・衛生を保つように常に心がけ、食材等もあまり多く仕入れず無駄なく使用するようにしている。調理器具類も定期的にハイター消毒している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口や玄関周りには常に季節に応じた花などおき、明るい雰囲気を保つようにしている。植木の剪定も近隣の方にご協力頂いて、いる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中過ごすホールは明るく日当たりの良い場所に設置し、またタタミ部分も設け冬はこたつを置き、神棚を飾るなど出来るだけ家庭的な雰囲気を保つようにしている。また調理場も隣接している為調理作業なども楽しめるようにしている。飾り付けも、手作りで、季節に合った装飾をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにイスやソファーなどおき、花などを飾りながらゆっくりと過ごせるようにしている。食事時のテーブル席は、決めているが、食事以外では、どこでも過ごせるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・収納スペースは事業所で用意してるが、それ以外は出来るだけ利用者が使い慣れた物などを持ってきてもらうよう依頼している。また、ご本人が、作られた作品も展示するようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアーは随時空気の入れ替えを行うと共に、居室などは掃除の時などに、換気を行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで、必要な箇所には手摺を設置し、安全の確保を行うと共に、平行棒を設置し必要な人には随時歩行訓練など行えるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口には居室名に応じた花のシールを貼ったり、トイレの場所や居室が分かりづらいと思われる人には、表示を大きくするなどしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外に小さな花壇・菜園を作り季節毎の花や野菜を楽しんでもらえるようにしている。草むしりや、野菜の採取などを手伝ってもらったりしている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

当事業所は沼田公園入口に位置しており、立地条件にも恵まれている為散歩など出来るだけ外出の機会を多く持ち、身体機能の維持や気分転換を図るようにしている。また設立母体が医療機関でおる為、体調管理については必要と思われるときは随時医師とも相談するなどして細心の注意を図っている。必要に応じてグループの理学療法士や言語聴覚士の指導を受け適切な介護を行えるようにしている。入居者に出来る範囲以内で、自分の好みの作品を作っていただき、玄関で展示するようにしている。